

ごあいさつ

昨年、わが国は、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって、経験したことのない甚大な被害に見舞われました。また、今年に入っても、気象庁が「これまでに経験したことがないような」という警報をしばしば発しているように、記録的短時間大雨など集中豪雨による被害、高潮の被害、巨大な竜巻による被害などが次々と発生しています。世界で最も自然災害にさらされやすい厳しい環境下にある日本が、世界的に活動期にあると言われる地震環境や、地球規模で生じている気候変動の影響を大きく受けているものと考えられます。さまざまな機能が発達した現代社会は、改めて自然の脅威に対するぜい弱さを露呈しました。

このような状況を受けて、政府は、想定外をなくすべく、南海トラフの地震被害想定を見直し、また、8月31日に決定した新たな「社会資本整備重点計画」で、4つの重点目標を設定し、その中の68の重点項目のうち約半分の32項目で、首都圏直下地震や南海トラフ巨大地震に備えた災害対策など「重点目標1：大規模または広域的な災害リスクの低減」に関わる項目を挙げ、取り組みの強化を示しています。このような取り組みを実現していくには、常に自然環境と対峙する建設業の役割がますます重要になると考えられます。

飛鳥建設は、災害や激変する地球環境から、人々の暮らしと命を守るという建設事業の根源的な使命を「防災のトビシマ」という標語であらわし、防災・減災に関わる技術、環境に関わる技術、社会基盤を維持し持続可能なものとしていく技術など様々な面から、安全・安心な社会を築き、堅持していくことに貢献すべく、全社を挙げて取り組んできました。これまでの取り組みを振り返り総括した上で、改めて、建設事業に関わる企業として、インフラ整備の必要性和重要性を再認識し、「防災のトビシマ」を進化させ、安全・安心な国土づくりへの貢献という社会的使命と役割を果たしてまいりたい所存です。

今回お届けする「とびしま技報」第61号では、当社の取り組んでいる技術開発の成果や建設現場での施工に関わる成果の一部について、22編を掲載いたしました。多くの皆様方に御高覧いただければ幸いです。

私どもの活動が、日本の復興と今後の災害への備えなど、皆様の安心安全に、また、持続可能な社会の構築に少しでもお役に立ちますよう、一層の研究開発を行っていく所存ですので、これまで同様、トビシマへの御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2012年10月
執行役員
技術研究所長
三 輪 滋